

宮畠遺跡と 掘立柱建物跡



宮畠遺跡では、縄文人の生活した竪穴住居や掘立柱建物、敷石住居などの建物跡、子供のお墓、湿地の埋め立ての様子などが発掘により明らかになりました。

特に、宮畠遺跡の縄文時代晚期のムラは全国的にも貴重なものであり、最大で直径90cmの柱を使用した掘立柱建物は、縄文時代のムラの中でも特別な建物だったと考えられ、じょーもひあ宮畠のシンボルとなっています。



じょーもひあ宮畠のシンボル「90の柱を使った竪立柱建物」

宮畠遺跡は、縄文時代中期、後期、晚期という約2,000年間にわたる縄文時代の人々の生活を伝える南東北地方を代表する縄文時代の遺跡として、平成15年8月27日に文部科学省より史跡に指定されました。

史跡公園愛称「じょーもひあ宮畠」として、平成19年度から造園工事を開始し、平成26年度の開園を目指して復元建物の整備、体験学習施設や駐車場等の工事が進められています。

平成23年3月

福島市教育委員会

掘立柱建物跡

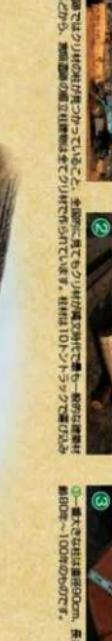
高齢者では「60歳の立派建築がそこかっています!」男根立柱建物はそのやうな最大規模のもので、シンプルな構造だったと考えられます。

また、建設技術は萬川用の開拓技術でつかった萬丈材の運搬材を手本に、萬文時代でも建築可能な工法を使っています。特に今は国内のうちに手作業のプロジェクトを使用しています。



①この柱は、さらに裏面を支える梁や柱をひいたい、隣接材との間に、柱は単純に、②細い柱つまりに空

③この柱は、切り下ろした木の端がわたり、隣接材では、柱材を柱に、柱はその他の木のメートルとし、隣接材の高さをメートルとしました。



④この柱は、切り下ろした木の端がわたり、隣接材では、柱材を柱に、柱はその他の木のメートルとし、隣接材の高さをメートルとしました。

⑤この柱は、切り下ろした木の端がわたり、隣接材では、柱材を柱に、柱はその他の木のメートルとし、隣接材の高さをメートルとしました。



1号掘立柱建物は高さ7.3メートルで高床式の切り妻の建物で、宮畠遺跡で最も大きな建物です。



2号掘立柱建物は高さ7メートルで高床式で切り妻の建物です。



5号掘立柱建物は高さ4.1メートルで平地式の寄せ棟の建物です。



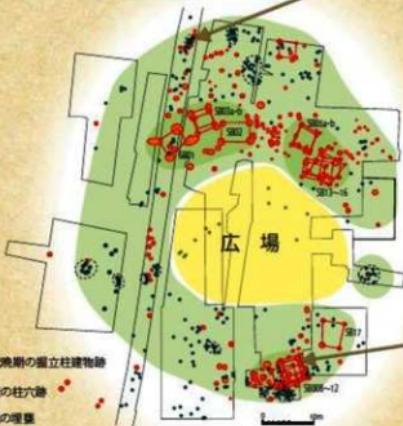
10号掘立柱建物は高さ4.5メートルで平地式の切り妻の建物です。



1号掘立柱建物は、柱の木材は残っていませんでしたが、柱を埋めて固定した穴（人が入っているところ）が見つかりました。その調査で柱の直径が90cmだったこと、2mの深さまで埋まっていたこと



掘立柱建物の分布する外側からは、子供のおもちゃと考えられる埋葬（うめがめ）がまとまって見つかっています。



多くの建物跡は同じ場所で何度も建て替えられていますため、重なって見つかります。これは8号～12号掘立柱建物の4棟が重なって見つかったところです。



5号掘立柱建物の柱の直径は直径35cmで、樹齢はおよそ40～50年ほどです。



屋根の骨組みです。てっぺんから斜めにかけた垂木に「えり」ことよばれる細い枝をわたしています（5号掘立柱建物）。



屋根を半分だけ塗いた状態です（10号掘立柱建物）。